

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2774200923		
法人名	社会福祉法人 慶徳会		
事業所名	グループホームふじい		
所在地	大阪府茨木市見付山1丁目3番29号		
自己評価作成日	令和5年11月27日	評価結果市町村受理日	令和6年2月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪府中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和5年12月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

定員9名の共同生活の場において、御利用者それぞれのペースを大切にし、家庭的でゆったりとした雰囲気の中で過ごしていただけるよう心掛けています。現在御利用者の平均年齢は87歳。ADLの低下がみられるものの、洗濯物や食器洗い、掃除等日常生活でのお手伝いをさせていただき、日々の生活が楽しく、生きがいを感じていただけるよう努めている。音楽療法士の方にも毎週来て頂いており、御利用者大変喜んで頂いている。現在はボランティア活動受け入れを再開し、近隣への外出レクリエーション活動、いきいきサロンや敬老会などの地域の行事にも参加されるなど、地域との関りの機会を取り戻しつつある。看護師は在住していないが、近隣の他施設とも連携し、御利用者の安全に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高齢者施設・障害者施設・児童施設を運営する社会福祉法人慶徳会(農繁期の託児所を慶徳寺の住職が開設したのち)を事業母体としている当事業所は2000年4月に開設された。事業所周辺は法人運営の特別養護老人ホーム・小規模多機能型施設・児童養護施設が点在し、幅広い福祉関連サービスを提供している。利用者の有する能力を引き出し、生活の中で役割(洗濯物をたたむ・食事の後かたづけ・掃除等)を担って貰い、張り合いとやりがいがある充実した生活の支援に取り組んでいる。事業母体が92年間培ってきた「地域の中で利用者のよりどころを大切にします」を念頭に利用者の視点を大切に、管理者・職員のコミュニケーションを活かし、種々のレクリエーションや外出、生活機能の向上(ラジオ体操・音楽療法の取り入れ)を図り、認知症状の緩和と悪化防止に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を基にしたふじい独自の理念がある。その理念にそった支援をする為、職員一同協力して取り組んでいる。	「穏やかな雰囲気の中で利用者に寄り添い充実した日々の過ごし方の支援・地域との結びつきを重視します」の内容の理念をユニット入口に掲げ、家族・第三者への周知と、職員の意識づけの徹底を図っている。毎日のミーティング時にケアの実践内容について話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの受け入れを再開しており、また地域行事への参加機会も少しずつ増えている。	散歩時に地域の人と挨拶を交わし、公民館のいきいきサロンや小学校の敬老会に参加している。児童養護施設の子供達から敬老の日に花束と寸劇・歌の動画のプレゼントを貰い、ハロウィンには事業所の玄関先で子供達にお菓子をあげている。ハーモニカ演奏のボランティアや高校生の実習生の受け入れなど幅広い交流と関わりがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生の受け入れを再開しており、今年度は近隣の高校生を受け入れている。来年には短期大学生(歯科衛生士)の実習受け入れを予定している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	法人内には小規模歌機能型施設が3か所ある。2か月に1度、運営推進会議を実施している。感染状況により書面でやり取りをさせていただくこともあるが、自治会長や民生委員、地域包括支援センターの職員にも参加して頂き、貴重な意見交換の場となっている。	奇数月の第三水曜日を定例開催日とし、地域包括支援センター・自治会長・地区福祉委員・介護相談員・家族代表の参加を得て運営推進会議を開催している。近況・行事・事故報告と現在の取り組み内容を伝え、参加メンバーから活発な意見・質問・要望を貰い、双方向的な運営推進会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	御利用者の中に生活保護を受給されている方が2名に増え、日頃の様子やサービス内容を担当者に報告し、関係を継続している。	市の福祉担当の窓口で事業所の現状報告を行い、公的扶助受給者(2名)の諸手続きで連携を取り合い、2ヶ月に1度ケースワーカーの訪問がある。また、毎月の介護相談員の訪問があり利用者・事業所間の架け橋の協力を得たり、事業者(福祉関連施設)連絡会の参加で福祉関連情報を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の研修の中で、身体拘束に関する研修があり、それに参加している。また、身体拘束等適正化委員会の中でも話し合い、全職員が身体拘束や行動制限につながらないように心掛けている。	身体拘束適正化指針文書を整え、適正化委員会、研修で理解の深化を図っている。研修後は職員各々がレポートを提出し、理解度を確認している。チェックリスト(振り返りシート)の中の項目にある“身体拘束マニュアルに基づかず動きを抑制する行為”“不快感を与える言葉かけや態度”などをチェックポイントとして、安全で抑圧感のない支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の研修の中で、虐待防止に関する研修があり、それに参加している。また日々のミーティングの中でふりかえる事で、全職員が虐待につながらないように心掛けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	御利用者9名中、3名の方が後見人や保佐人を活用されている。今後も権利擁護については理解を深めていく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の説明の際には、御利用者や家族に誤解を与えないよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン作成時や面会時、また家族会や運営推進会議の案内や参加の声掛けを行い、家族からの意見を反映できるよう努めている。	利用者全員が自身の思いを表す事ができて、日頃のケアの中で聴き取り、家族には訪問時や電話連絡の機会に傾聴して、意見が出しやすい雰囲気留意している。コロナ渦中は面会・外出の規制で要望に応えられなかったが、現在は面会・外食・外泊が可能となっている。TPOに合わせた衣類選び、重ね着対策などの改善に応じている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のミーティングや会話、ノートを活用し、意見や提案をしやすいような雰囲気を中心掛けている。	日々の支援での気づき・提案は申し送りノートや業務日誌を活用し、ミーティング時に話し合っている。遠出の外出、レクリエーション内容の案、排泄用品のコンパクト化で経費節約に結び付ける事、書類の手書きをPC入力で簡素化を図る意見など改善できる事案は即取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者からの報告により、個々の職員の勤務状況や就業環境等を把握している。また、個人面談を通して、その職員の思いを聞き、向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で介護職員研修受講計画を立てている。経験年数に応じて、内外の研修に参加する機会を設けている。コロナ禍以降、延期や中止になることもあるが、法人内での人権研修や初任者研修もあり、職員を育てる取り組みに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市主催のグループホーム交流会は再開しているが、タイミングが合わず参加には至っていない。事業者連絡会への参加や、会議の中で他施設職員との情報交換を行うことで、サービスの質の向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の見学では、可能な限り御利用者本人にも来ていただけるようお願いをしている。その際に、御利用者の想いを伺い、少しでも安心していただけるよう、努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、家族等の困っている事や不安な事、必要な事等を確認し、こちらがどこまで対応可能か説明し、理解していただくよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントの中で、本人と家族の想いを伺うだけでなく、その時に必要な支援がどのようなものなのかを協議している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に相手の立場に立ち物事を考え、御利用者の想いを尊重し、共同生活の中でできる限りの事をサポートしていけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御利用者だけでなく、家族への関りも大切にしている。職員だけでなく家族とも協力し合い、御利用者を支援していけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	市職員、介護支援相談員、民生委員の面会の頻度は少しずつ増えている。	家族の面会は居室で自由にできるようになっている。以前の住居の友人・知人の訪問は利用者の反応(嫌がるそぶり等)で判断して許可している。家族同行で墓参り・外食・外泊に出かける人もいて、これまでの生活習慣の継続を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	賑やかな場が好きな方、苦手な方。御利用者間でも仲の良い関係性を継続できている方。それぞれを見極め、関わりあえるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前利用されていた方の知人がボランティア活動を再開されたので、週1回お越しいただいている。このように、サービス終了後も、御利用者やその家族との関係を大切にしていきたいよう努めていく。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御利用者一人ひとりとの関わりの中で、希望や想いを把握している。また、意思疎通の困難な御利用者等、御家族に相談しながら、本人にとって何がベストなのかを考えるよう努めている。	入居時のフェイスシート・アセスメントシートを基に利用者の心身の状況を鑑みながら、今何をしたいか、どのような役割を担って貰うか、何が嫌いか等の思いや意向に関心を払っている。把握した内容は業務日誌・介護日誌に記入して全体で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前のアセスメントの中で、御利用者やその家族から、生活歴や暮らし方等の情報を得るようにしているが、入所後も、関係を継続しながら、更に情報を得れるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、御利用者の動向を把握し、職員間でも情報を共有する事で、心身状態や残存能力の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族が面会に来られた際には、御利用者の状況をお伝えし、課題や支援について話し合う機会を作り、家族の想いも反映出来る様努めている。	毎日のミーティングでのカンファレンスと6ヶ月毎のモニタリングで利用者の心身の現状を検討し、支援経過記録・業務日誌(受診内容も記述)看護日誌を参考に短期6ヶ月長期1年の計画作成を行っている。担当者会議には管理者・ケアマネジャー・職員と本人・家族が参加する時もあり、関係者全体の意見が反映された介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援経過記録や日誌だけでなく、ミーティングノート等を活用し、職員間で日々の課題や支援について話し合い、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御利用者や家族からの要望があれば、その都度対応可能か検討し、柔軟に対応して頂けるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアに協力して頂き、御利用者一人ひとりが自身の力を発揮しながら楽しんで過ごせるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診をする際は、御利用者やその家族と話し合い、希望を伺っている。また、訪問マッサージや歯科の往診もしており、適切なサービスが受けられるように努めている。	入居時に利用者・家族と相談の上、法人の診療所(内科 月2回)を受診している利用者は6名、歯科は週1回の協力医による訪問診療を8名が受けている。物忘れ外来、整形外科、眼科には従来のかかりつけ医を家族または職員同行で受診している。受診内容は看護日誌により職員間で共有し、家族へはメールや手紙で報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の関りの中で気づいた情報は、看護師に報告・相談をし、受診等に速やかに対応できるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	御利用者が入院された際は、家族や病院内のソーシャルワーカーと連携を取り、入院中の御利用者の状況把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居される前の段階で、御利用者やその家族には重度化や終末期の在り方について、説明している。必要に応じて、同法人内の他施設と連携を取り、支援するよう努めている。	入居時に「重度化対応・終末期ケアの対応方針」について利用者・家族に説明し同意を得ている。重度化の際には医師が家族に説明し、職員・家族で話し合い、できる限り要望に答えながら法人施設と連携を図り支援している。直近では11月小規模多機能型施設に一時移転した利用者がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、AEDを使用した応急手当等の研修を、法人内で実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内の近隣施設と合同で避難訓練を行っている。また、消防署指導の訓練も行っている。地域の方がに対しては、運営推進会議で協力の呼びかけを行っている。	避難訓練は年2回行っている。9月には大阪880万人訓練に合わせて地震想定訓練を行い、来年3月は夜間の出火を想定して利用者・職員で総合訓練(通報・初期消火・避難経路確認)を行う予定である。法人内の近隣施設との協力体制はできている。備蓄は水・食料品等を3日分用意し、法人の栄養士が管理している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ゆったりとした雰囲気を中心掛けており、御利用者一人ひとりのペースに合わせて、対応している。スピーチロックにならないよう、日頃から職員同士声を掛け合っている。	人権研修は職員が事務所でDVDを見て受講し、各自レポートを提出し理解を深めている。特に声掛け時の言葉選び・声量・トーンに注意し、不適切対応には管理者または副主任が指導している。運営推進会議で家族代表の意見として接遇はピカイチと絶賛の声がある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り、自己決定出来るよう、配慮し声掛け等行っている。自己決定が困難な場合は、表情や態度から汲み取る等工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴やレク等もその時の気分や体調で、調節するよう心掛けている。こちらから色々提案させていただくことあるが、御利用者自身のペースで過ごしていただけるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御利用者の趣味嗜好に配慮しながらも、季節に合った服装や同じ服装にならない様、声掛けしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在は食事の準備は職員が行っているが、食器洗いやおやつ作り等、可能な限り御利用者にも参加して頂いている。	食材業者による献立と食材(チルド食)をスチーマーで温めて提供している。米飯とみそ汁は職員が調理し、利用者は洗いや片づけを行っている。庭で収穫したさつま芋を蒸しておやつにしたり、家族からのおやつに抹茶を楽しむひと時がある。	利用者・職員と一緒に調理して楽しむ食事レクリエーションが行われていない。コロナ感染症が5類に分類され、少しずつ日常が戻りつつあるので、全員参加型(利用者・家族・職員)の食事レクリエーションの再開を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量が低下される場合は随時、法人内の栄養士や看護師に相談し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアだけでなく、希望者には週に1回訪問歯科の診察を受けていただき、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在、夜間に紙オムツを使用されている方はおられない。御利用者のペースに合わせ、可能な限りトイレでの排泄が出来るよう取り組み、不衛生になってしまわないよう配慮しながら対応している。	日中は、利用者全員がトイレでの排泄を行っている。声掛けに工夫を凝らし、廊下を歩きながら、雑談をしながらなど、何かのついでに声掛けをするようにしている。夜間は1時間ごとに見回りしているが、安眠を妨げないようにしている。ポータブルトイレを使用している利用者は1名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の服用に関しても、状況に応じて可能な限り服用せずに様子を見る等、身体に負担が掛からないよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴希望のタイミングが重なり、ご希望に沿えないこともある。入浴がお好きな方、あまり好きではない方がおられる為、入浴間隔をみながら可能な限り均等に入浴していただけるよう調整させていただいている。	入浴は週2日の午前か午後としているが、利用者の意向に沿うようにしている。昨年、機械浴を導入し、シャワーチェアに座ったまま湯船につかることができるようになった。入浴を面倒に思う利用者にはタイミングを逃さないよう、準備万端での声掛けや前日からの声掛けなど利用者毎に工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御利用者のペースに合わせてつつ、昼夜逆転してしまわないよう注意している。日中は何か熱中して取り組んでもらえるような事に集中して頂き、夜間に良眠出来る様努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	御利用者が現在服用中の薬については、ファイリングしており、全職員で情報を共有できるようにしている。変更があれば、都度周知するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御利用者の好みや特技に応じて、日々を楽しく過ごしていただけるよう努めている。感染状況に注意し感染症対策に努め、これからも散歩や外出もして気分転換を図れるよう努めていく。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩がお好きな御利用者が、ご自身のペースで散歩にいけるよう努めているが、介護度が上がっており、等しく散歩の機会を確保することはできていない。また、外出の機会を維持できるよう、家族にも協力して頂いている。	日常的には近隣散歩にとどまっていたが、漸く9月から積極的に外出している。万博公園、真龍寺、バラ園へのドライブの他、公民館でのいきいきサロン、近隣小学校での敬老会にも参加した。庭に出での日光浴や色とりどりの寄せ植えの花の水やりも職員と共に楽しみながら行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、施設内でのお金は、御家族様の要望もあり、職員が管理させていただいている。買い物等の希望があれば、職員が買いに出かけたり、ご家族様にも協力させていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御利用者からの希望に応じ、必要であればお手伝いさせていただき、対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓も多く、日光を取り入れ易くなっている為、明るい雰囲気を維持し、少しでも居心地よく感じて頂けるよう努めている。また、居室内の温度や湿度の管理は常に意識している。	居間兼食堂は大きな掃き出し窓と天窓から日差しが届きとても明るい。壁面にはクリスマスブーケや利用者の干支のイラスト入りの写真が飾られ、家庭的な雰囲気に溢れている。広く長い廊下も明るく、ここで利用者は毎朝歩行リハビリを行っている。清掃は週5日勤務の掃除専門職員が行い、清潔が保持され快適な共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席は、席替えをしたり、リビングのソファの配置を変えたり、共同生活の中でも、ストレスが溜まらないよう配慮した環境づくりを心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていた、御利用者が使い慣れた家具等を持ち込んでいただき、少しでも居心地の良い生活が送れるよう配慮している。	居室入り口には利用者の写真と職員手作りの粘土細工をあしらった表札があり、扉は開け放してプライベートカーテン、洗面台、ベッド、エアコン、押し入れ、温湿度計、換気扇が備え付けで、テーブル、椅子、テレビ、冷蔵庫を持ち込み、日本人形、ぬいぐるみ、家族写真等を飾り居心地のいい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行の妨げにならないよう、廊下などにはできるだけ物を置かないよう、安全に配慮した環境を作るよう努めている。御利用者の転倒のリスクなどを想定し、配線や家具の位置に気を配っている。		